

授業 科目名	心理学 (Psychology)	履修年次: 1～4 年	2 単位 30 時間	担当教員名: 高橋良博 (非常勤講師室)
		必修: 作 選択: 看, 栄, 歯, 理	コード: LAA101	
〔DP〕Ⅲ 実践に必要な知識 Ⅱコミュニケーション能力 Ⅶ生涯にわたる探究心と自己研鑽				
〔授業の到達目標及びテーマ〕				
授業の到達目標: この講義は、初めて心理学を学ぶ学生に、①心理学の歴史、基本的概念や研究法、を学ぶこと、②人間の心理学的理解に関心を持ってもらうこと、③人間の心理学的理解を基礎に、健常者の心理を理解した上で臨床と関連づけ、病者、高齢者、障害者の心理の理解やかかわりに活かす事が出来るようになること。の3項を目標としている。 テーマ:「基礎から学ぶ心理学」				
〔授業の概要〕				
心理学の主な研究領域の中から心理学の定義と歴史、感覚、知覚、学習、記憶、性格などの問題を中心に、基本的な概念と研究法などを学ぶ。それと共に心理学の知識を臨床にどのように活かすかを併せて示しながら授業を展開する。時間の許す範囲で可能な限り教室の中で出来る簡単な実験や心理テストなどもとり入れ、心理学研究の雰囲気も伝えてゆきたい。				
キーワード: 心理学, 概論, 臨床, 健常者・患者・障害者・高齢者のこころの理解				
〔授業計画〕				
回 数	日付	テ ィ マ	内 容	
第1回	4/10	心理学とは何か	心理学の定義と歴史・医療との関わり	
第2回	4/17	心理学の領域と研究法	心理学の領域と研究法	
第3回	4/24	感覚 (1)	1) 感覚とは何か 2) 視覚の特性	
第4回	5/01	感覚 (2)	1) 聴覚の特性 2) 聴覚の異常・障害・加齢による変化	
第5回	5/08	感覚 (3)	1) 味覚の特性 2) 嗅覚の特性 3) その他の感覚	
第6回	5/15	知覚 (1)	1) 知覚の特性 2) 知覚のまとまり 3) 知覚の意味づけ	
第7回	5/22	知覚 (2)	1) 錯覚と錯視 2) 錯覚と幻覚 3) 知覚成立と内的要因	
第8回	5/29	学習 (1)	1) 学習の定義 2) 古典的条件づけ	
第9回	6/05	学習 (2)	1) 道具的条件づけ 2) 学習理論と行動療法	
第10回	6/12	記憶 (1)	1) 記憶の過程 2) 感覚記憶 3) 短期記憶	
第11回	6/19	記憶 (2)	1) 長期記憶 2) 忘却の要因 3) 記憶の異常と障害	
第12回	6/26	適応 (1)	1) 人と環境 2) 欲求と動機づけ 3) 葛藤と欲求不満	
第13回	7/03	人格 (1)	1) パーソナリティの理論 2) 類型論の立場	
第14回	7/10	人格 (2)	1) クレッシャーとユングの類型論 2) 類型論の利点と問題点	
第15回	7/17	人格 (3)	1) 特性論 2) 特性論の利点と問題点 3) 構造論 まとめ	
履修条件		特になし		
予習・復習		予習: 次回の講義内容として示されたテーマについて、テキストの該当箇所に目を通しておく。 復習: 講義で板書され説明されたテクニカルターム等を調べて良く理解し知識を整理しておく。		
テキスト		『人間理解の科学 [第2版] ―心理学への招待』 鈴木清 編 カニシ出版		
参考書・参考資料等		『看護心理学』鋤柄増根 編 カニシ出版 他、講義中に適宜紹介する。		
学生に対する評価		定期試験 (50%) ,講義への取り組み、学習態度 (50%) などを得点化し総合的に評価する。		

授業 科目名	哲学 (Philosophy)	履修年次 選択	2 単位 30 時間	担当教員名: 柳田 詩織 (非常勤講師室)
		全学科専攻 1～4 年	コード : LAA102	
〔DP〕Ⅰ 倫理観とプロフェッショナリズム, Ⅲ 実践に必要な知識, Ⅶ 生涯にわたる探究心と自己研鑽				
〔授業の到達目標及びテーマ〕				
受講生が、哲学・倫理学の基礎的な内容を理解すること、当たり前とされている事柄について批判的に吟味する力を得ること、現代社会の様々な問題に対して哲学・倫理的視点からアプローチする態度を養うことを目標とする。テーマは近現代の西洋哲学・倫理学である。				
〔授業の概要〕				
授業では、参加者が自分で問いをたて、自分で考えることが目指される。哲学者はそれぞれ自分の生き方の哲学を展開するだけで、わたしたちは彼らの言葉から感銘を受けるような言葉を見つけ出せばいいと考える人もいるが、それは間違いである。通常、「…の哲学」などといわれて、個々別々にいろいろな哲学があるように見えるなかにも、「批判的に思考すること」という共通の営みがある。この授業は、毎回、適当な題材をもとにして問いを立て、批判的な思考を育むことを要求する。				
キーワード: 哲学、倫理学、ケアの倫理				
〔授業計画〕				
回 数	日付	テ ェ マ	内 容	
第 1 回	4/11	初回ガイダンス	講義の概要・進め方を確認する。	
第 2 回	4/18	幸福とは何か①	アリストテレスの幸福論について学ぶ。	
第 3 回	4/25	幸福とは何か②	幸福とは何か、功利主義にそくして考える。	
第 4 回	5/2	幸福とは何か③	現代社会における幸福のありかたを考える。	
第 5 回	5/9	道徳とは何か①	道徳とは何か、プラトンにそくして考える。	
第 6 回	5/16	道徳とは何か②	道徳とは何か、カントの義務論にそくして考える。	
第 7 回	5/23	社会と個人①	社会契約論について学ぶ。	
第 8 回	5/30	社会と個人②	ロールズの正義論を考える。	
第 9 回	6/6	社会と個人③	サンデルの政治哲学を検討する。	
第 1 0 回	6/13	社会と個人④	アーレントの政治哲学を学ぶ。	
第 1 1 回	6/20	差別の哲学	差別の問題について哲学的観点から考える。	
第 1 2 回	6/27	優生思想の問題	優生思想の問題について学ぶ。	
第 1 3 回	7/4	ケアの倫理①	ケアの倫理についての基礎的な知識を身につける。	
第 1 4 回	7/11	ケアの倫理②	前回の続き、ケアの倫理を多角的な視点から学ぶ。	
第 1 5 回	7/18	今学期のまとめ	今学期のまとめ・学期末レポートの説明など。	
履修条件		特になし。		
予習・復習		予習：次回資料に目を通す。 復習：資料・ノート読み返して理解を深める。		
テキスト		特になし。毎回資料を配布する。		
参考書・参考資料等		必要に応じて授業時に提示する。		
学生に対する評価		学期末レポート（70%）、日ごろの学習態度（30%）により、総合的に評価する。		

授業 科目名	文学 (Japanese literature)	履修年次:選択	2 単位 30 時間	担当教員名: 柴 佳世乃 (非常勤講師室)
		全学科 1～4 年	コード:LAA103	
		実務経験のある教員による授業科目		
〔DP〕Ⅲ 実践に必要な知識、Ⅶ 生涯にわたる探究心と自己研鑽				
〔授業の到達目標及びテーマ〕				
本授業では、現代に生きる我々に通ずる人間模様の様々を考察するため、文学とりわけ古典文学の読解に取り組む。古典文学を読む際に必要な、歴史・文化的背景やことばの解読などの基礎的な力を養う。具体的には、中世文学の白眉である『宇治拾遺物語』を精読し、その魅力を堪能する。				
〔授業の概要〕				
中世は説話の時代と言われ、多くの説話集が編まれるが、なかでも鎌倉時代前期に成った『宇治拾遺物語』は、独特の表現や配列を持ち、魅力あふれる説話集である。本授業では講義形式により、古典文学・説話文学の概観を行ったのち、『宇治拾遺物語』各話を味読しつつ、すぐれた人間洞察や、表現の面白さを存分に味わいたい。また、そこから垣間見える中世の文学・文化を広く学ぶことを目的とする。 キーワード: 文学、古典、中世文学、説話、宇治拾遺物語				
〔授業計画〕				
回 数	日付	テ ィ マ	内 容	
第1回	4/15	ガイダンス	説話文学の魅力について	
第2回	4/22	宇治拾遺の魅力—序文	宇治拾遺物語について。以下、各話を味読する。	
第3回	5/13	第195話	秦の始皇帝が天竺僧を禁獄した話	
第4回	5/20	第196話	荘子と「後の千金」の話	
第5回	5/27	第197話	盗跖と孔子の話	
第6回	6/3	番外編	孔子の話について	
第7回	6/10	第1話	道明と和泉式部の話	
第8回	6/17	第2話	きのこと僧侶の話	
第9回	6/24	第3話	鬼にこぶを取られる話	
第10回	7/1	第4話	伴大納言の話	
第11回	7/8	第12話	兄の空寝の話	
第12回	7/15	第48話	雀報恩の話	
第13回	7/22	第89話	筑摩の湯に観音が沐浴に来る話	
第14回	7/24	研究方法について	レポートの書き方、調査方法などについて	
第15回	7/29	まとめ	授業全体を通したまとめと確認	
履修条件		特になし		
予習・復習		テキストを事前に読んでくること。配付資料などで考察を深めること。		
テキスト		授業中にプリントを配る。		
参考書・参考資料等		授業中にプリントを配る。		
学生に対する評価		期末レポート（60%）、授業参加の態度（40%）により、総合的に評価する。		

授業 科目名	歴史と文化 (History and Culture)	履修年次:選択 全学科 1～4 年	2 単位 30 時間 コード: LAA104	担当教員名: 小関悠一郎 (非常勤講師室)
〔DP〕 VII 生涯にわたる探究心と自己研鑽Ⅱ コミュニケーション能力				
〔授業の到達目標及びテーマ〕 本講義は、近世・近代日本における人々の人命環境と政治、をテーマに開講します。 到達目標は、次の通りです。 (1) 近世・近代日本の様々な政治動向を通して、当時の人々が置かれていた人命環境を理解する。 (2) 歴史的な視点によって社会のあり方を捉える力を身につける。				
〔授業の概要〕 近世・近代日本に生きた人々は、人命についてどのような考え方をもち、それは政治・社会の様々な動向とどう関連していたのでしょうか。本講義では、こうした問題を人命環境の語によってとらえ、近世日本（江戸時代）における命をめぐる政治を焦点として概説していきます。				
キーワード:近世日本（江戸時代）、人命環境、命をめぐる政治、政治理念、政治改革				
〔授業計画〕				
回 数	日付	テ ー マ	内 容	
第1回	4/15	講義概要説明	講義の概要と進め方・成績評価の方法など	
第2回	4/22	日本近世史概説①	人口からみた日本近世	
第3回	5/13	日本近世史概説②	近世日本の政治理念：江戸時代の政治は何を目指したか	
第4回	5/20	戦国の記憶	近世人が政治に希求したもの：人々は戦国の世をどう見たか	
第5回	5/27	人民統治の課題	人々の生命を保障しようとする政治権力	
第6回	6/3	生類憐みの時代	徳川幕府の政治と命をめぐる意識の変容	
第7回	6/10	仁政と医療政策	政治権力による医学知の掌握；徳川吉宗の政治から	
第8回	6/17	飢饉と政治	近世の飢饉と人命：人災としての災害を考える	
第9回	6/24	改革の時代	近世政治の改革がもたらしたもの	
第10回	7/1	産子養育政策の展開	権力による妊娠・出産・育児の管理を考える	
第11回	7/8	格差社会の展開	商品生産・貨幣経済と民衆：格差と人命をめぐる	
第12回	7/15	学問の発展と西洋知識摂取	近世の知識人層は西洋の人命観をどう受け止めたか	
第13回	7/22	富国強兵の時代	近代日本における国民化と人々の身体	
第14回	7/24	戦争と人命	近世・近代の人名環境のあり方と変化を考える	
第15回	7/29	まとめ	授業内容を振り返り人命環境と政治の関係について考える	
履修条件		特に無し。		
予習・復習		授業を通して指定した文献・資料の予習、小レポートの作成。		
テキスト		各回で授業に関する資料を共有する。		
参考書・参考資料等		岩波新書『上杉鷹山「富国安民」の政治』ほか、授業内で紹介する。		
学生に対する評価		授業態度（20%）、中間レポート・課題（30%）、期末レポート（50%）		

授業 科目名	生命倫理 ① (Bioethics)	履修年次1～4年	2 単位 30 時間	担当教員名: 小館貴幸 [介護福祉士] (非常勤講師室)
		必修: 栄・歯 選択: 看・理・作	コード:LAA105	
		実務経験のある教員による授業科目		
〔DP〕Ⅰ 倫理観とプロフェッショナルリズム Ⅱ コミュニケーション能力 Ⅲ 実践に必要な知識				
〔授業の到達目標及びテーマ〕				
・医療を担う者にとって大切な「いのち」の尊厳に基づいた倫理観を養うことができる。 ・生命倫理の諸原則に基づいて、自ら判断する力を習得することができる。 ・患者や家族の思いを理解するための多角的な視点を獲得できる。				
〔授業の概要〕				
前半では基本的諸事項を講義し、後半ではディスカッションの機会を設けていく。一つのテーマに対してディスカッションと解説を行う。授業では、ディスカッションを通じて他者の意見を聴き、自ら考える場を提供して「現場で答えを出せる力」を養っていく。在宅での難病・終末期ケアにも携わる講師により、現場の声を多く紹介していく。学期末試験は実施せず、日々の議論や課題がメイン評価となる。 キーワード:いのち、倫理原則、インフォームド・コンセント、人間の尊厳、ケア				
〔授業計画〕				
回 数	日付	テ ー マ	内 容	
第1回	10/2	食と「いのち」	人間にとっての食とは何かを考察し、いのちの尊厳を考える。	
第2回	10/9	倫理とは何か	倫理の語源や起源を解説し、倫理と医療の関係について述べる。	
第3回	10/16	医の倫理①	医の倫理の原点である『ヒポクラテスの誓い』を取り上げる。	
第4回	10/23	医の倫理②	医の倫理の概略を示し、その本質や原則について解説する。	
第5回	10/30	生命倫理の成立	「医の倫理」～「生命倫理」への流れを倫理綱領を通して述べる。	
第6回	11/6	生命倫理の四原則①	自律尊重の原則、インフォームド・コンセントを取り上げる。	
第7回	11/13	生命倫理の四原則②	善行・無危害・正義の原則を取り上げ、四原則を整理する。	
第8回	11/20	生命の始まりの問題①	人の始まりについてグループワークを行う。	
第9回	11/27	生命の始まりの問題②	人工妊娠中絶を取り上げながら、人の始まりについて考察する。	
第10回	12/4	現代医療の問題①	胃ろうを取り上げ、その是非について議論を行う。	
第11回	12/11	現代医療の問題②	胃ろうについて解説し、胃ろうの意味と意義について考察する。	
第12回	12/18	現代医療の問題③	認知症とそのケアについての基本的諸事項について解説する。	
第13回	1/8	現代医療の問題④	認知症の人のケアについてグループワークを行う。	
第14回	1/22	生命の終わりの問題③	人生の最終段階におけるケアについてグループワークを行う。	
第15回	1/29	生命の終わりの問題④	人生の最終段階におけるケアについて解説・考察を行う。	
履修条件		「生命倫理①」は食に関する事例を多く取り上げるので、管理栄養学科と歯科衛生学科の受講生は、「生命倫理①」を受講することが望ましい。		
予習・復習		予習: テキストを熟読し、疑問点を整理する。復習: 授業後の課題に取り組む。		
テキスト		「なぜ生命倫理なのか」 朝倉輝一編、大学教育出版刊。		
参考書・参考資料等		授業の中で適宜紹介する。		
学生に対する評価		小テスト (20%)、中間レポート (15%)、小レポート (5%)、課題 (60%)		

授業 科目名	生命倫理 ② (Bioethics)	履修年次:1～4 年	2 単位 30 時間	担当教員名: 小館貴幸 [介護福祉士] (非常勤講師室)
		必修: 栄・歯 選択: 看・理・作	コード:LAA105	
		実務経験のある教員による授業科目		
〔DP〕				
〔授業の到達目標及びテーマ〕				
・医療を担う者にとって大切な「いのち」の尊厳に基づいた倫理観を養うことができる。 ・生命倫理の諸原則に基づいて、自ら判断する力を習得することができる。 ・患者や家族の思いを理解するための多角的な視点を獲得できる。				
〔授業の概要〕				
前半では基本的諸事項を講義し、後半ではディスカッションの機会を設けていく。一つのテーマに対してディスカッションと解説を行う。授業では、ディスカッションを通じて他者の意見を聴き、自ら考える場を提供して「現場で答えを出せる力」を養っていく。在宅での難病・終末期ケアにも携わる講師により、現場の声を多く紹介していく。学期末試験は実施せず、日々の議論や課題がメイン評価となる。				
キーワード: いのち、倫理原則、インフォームド・コンセント、人間の尊厳、ケア				
〔授業計画〕				
回 数	日付	テ ー マ	内 容	
第1回	10/3	「いのち」について	いのちの語源や起源を明らかにし、いのちの尊厳を考える。	
第2回	10/10	倫理とは何か	倫理の語源や起源を解説し、倫理と医療の関係について述べる。	
第3回	10/17	医の倫理①	医の倫理の原点である『ヒポクラテスの誓い』を取り上げる。	
第4回	10/24	医の倫理②	医の倫理の概略を示し、その本質や原則について解説する。	
第5回	10/31	生命倫理の成立	「医の倫理」～「生命倫理」への流れを倫理綱領を通して述べる。	
第6回	11/7	生命倫理の四原則①	自律尊重の原則、インフォームド・コンセントを取り上げる。	
第7回	11/14	生命倫理の四原則②	善行・無危害・正義の原則を取り上げ、四原則を整理する。	
第8回	11/21	生命の始まりの問題①	人の始まりについてグループワークを行う。	
第9回	11/28	生命の始まりの問題②	人工妊娠中絶を取り上げながら、人の始まりについて考察する。	
第10回	12/5	生命の始まりの問題③	赤ちゃんポストについてグループワークを行う。	
第11回	12/12	生命の始まりの問題④	赤ちゃんポストの現状を紹介し、利点と問題点を考察する。	
第12回	12/19	生命の終わりの問題①	脳死を取り上げる予定。脳死に関してグループワークを行う。	
第13回	1/9	生命の終わりの問題②	脳死に関する基本的諸事項を事例を踏まえて解説していく。	
第14回	1/23	生命の終わりの問題③	人生の最終段階におけるケアにおける基本的諸事項を解説する。	
第15回	1/30	生命の終わりの問題④	人生の最終段階におけるケアについて発表を行っていく。	
履修条件		「生命倫理②」は、臨床現場における看護に関する事例を取り上げる。		
予習・復習		予習: テキストを熟読し、疑問点を整理する。復習: 授業後の課題に取り組む。		
テキスト		「なぜ生命倫理なのか」 朝倉輝一編、大学教育出版刊。		
参考書・参考資料等		授業の中で適宜紹介する。		
学生に対する評価		小テスト (20%)、中間レポート (10%)、発表 (10%)、授業での課題 (60%)		

授業 科目名	宗教学 (History of Religions)	履修年次:選択	2 単位 30 時間	担当教員名: 藤井 修平 (非常勤講師室)
		全学科専攻 1～4 年	コード: LAA106	
〔DP〕Ⅲ 実践に必要な知識 Ⅶ 生涯にわたる探究心と自己研鑽 Ⅱ コミュニケーション能力				
〔授業の到達目標及びテーマ〕				
(1) 「宗教」という概念に含まれるさまざまな要素を整理して述べることができる				
(2) 世界の宗教についての知識を、時事問題の理解や日常的な問題の解決に応用することができる				
(3) 政治や福祉など社会の諸側面に、宗教がいかに影響を与えているかを適切に説明することができる				
〔授業の概要〕				
「宗教」は一部の人々が信じているもので、多くの人の生活には関わりのないものだと考えている人は多いかもしれません。しかし学問的に見ると、日常で接する占いや迷信、神話には宗教的要素が含まれており、現代の社会や政治にも宗教が大きな影響を及ぼしています。この授業の目的は、宗教学の観点から宗教とは何かを把握し、それが私たちの生活にいかに関わっているかを理解することにあります。				
キーワード：世界の宗教、身近な宗教的事象、社会のさまざまな側面と宗教、スピリチュアル				
〔授業計画〕				
回 数	日付	テ ィ マ	内 容	
第 1 回	10/3	導入・宗教とは何か	授業計画の説明と、宗教学の基礎について	
第 2 回	10/10	宗教学的思考	宗教学の研究手法と関連する概念の解説	
第 3 回	10/17	仏教	世界の仏教の概要と現代社会における状況	
第 4 回	1/24	キリスト教	キリスト教の概要と現代社会における状況	
第 5 回	1/31	イスラム教	イスラム教の概要と現代社会における状況	
第 6 回	11/7	儒教・道教	東アジアの宗教思想の概要と現代社会における状況	
第 7 回	11/14	日本宗教	日本の神道・新宗教・妖怪	
第 8 回	11/21	スピリチュアル・ブーム	日本と世界のスピリチュアルな活動の広まり	
第 9 回	11/28	神話	世界の神話と漫画・アニメ・ゲーム等との関わり	
第 1 0 回	12/5	宗教のネガティブな側面	社会的に問題となっているカルトと疑似科学	
第 1 1 回	12/12	宗教と政治	宗教が世界の政治にどのように関わっているか	
第 1 2 回	12/19	宗教と哲学・倫理	宗教の合理的・知的な側面	
第 1 3 回	1/9	宗教とジェンダー	宗教とジェンダーの関わりと、宗教への批判	
第 1 4 回	1/23	宗教と医療	宗教と身体・精神の医療の関係	
第 1 5 回	1/30	宗教とウェルビーイング	宗教と福祉の関わりと実践例	
履修条件		特になし		
予習・復習		次回のテーマに関わるニュースや用語などの予習と、授業後に提出する課題について、復習として授業の内容を踏まえて回答する		
テキスト		特になし		
参考書・参考資料等		櫻井義秀、平藤喜久子『よくわかる宗教学』ミネルヴァ書房、2015 年		
学生に対する評価		授業への参加状況 20%・授業後課題 40%・期末レポート 40%		

授業 科目名	教育学 (Pedagogy)	履修年次: 選択:全学科専攻 1～4 年	単位数: 2 単位 30 時間 コード: LAA107	担当教員名: 広川由子 (研究室 図書館棟 10)
〔DP〕 II. コミュニケーション能力 VI. 他職種との協働 VII. 生涯にわたる探究心と自己研鑽				
〔授業の到達目標及びテーマ〕 本授業の到達目標は、教育を成り立たせる要素を確認しながら、子ども・若者をとりまく今日的状況や学校の社会的機能を理解しつつ、学校の歴史に立ち戻りながら、自らの教育観を省察することである。そのうえで、現代の教育現場が抱える問題の要因を考察し、確かな見識がもてるようになることである。				
〔授業の概要〕 本授業は、一般教養として教育の基礎知識を以下の四つの観点から概説する。第一に今日、社会問題となっている子ども・若者をとりまく環境について、第二に現代社会において学校の果たす機能について、第三に現代社会における喫緊の教育課題についてである。学生自身が行う作業やグループディスカッション、グループ発表の機会を多く設け、理解を深めつつ進める。				
キーワード: 人間と社会、子ども・若者の環境、学校の社会的機能、子どもの教育の歴史、教育政策				
〔授業計画〕				
回 数	日付	テ ー マ	内 容	
第1回	10/6	オリエンテーション	授業計画、授業概要、評価方法の説明	
第2回	10/20	子ども・若者をとりまく環境①	学生自らの学校体験の振り返り	
第3回	10/27	子ども・若者をとりまく環境②	子どもの貧困①	
第4回	11/10	子ども・若者をとりまく環境③	子どもの貧困②	
第5回	11/17	子ども・若者をとりまく環境④	子どもの権利条約①	
第6回	12/1	子ども・若者をとりまく環境⑤	子どもの権利条約②	
第7回	12/8	現代社会と学校教育①	いじめ①	
第8回	12/15	現代社会と学校教育②	いじめ②	
第9回	12/22	現代社会と学校教育③	部活動①	
第10回	1/5	現代社会と学校教育④	部活動②	
第11回	1/19	現代社会と教育課題①	表現の自由と人権①	
第12回	1/26	現代社会と教育課題②	表現の自由と人権②	
第13回	1/28	現代社会と教育課題③	教科書内容の検討①	
第14回	2/2	現代社会と教育課題④	教科書内容の検討②	
第15回	2/3	本授業の振り返り	子ども・若者の未来と展望	
履修条件		特になし。		
予習・復習		予習として配布資料を熟読し、次週の授業のための調べ学習に取り組むこと。復習はレジュメ・配布資料にて授業を振り返りつつ、課題・レポート（授業の感想）等に取り組むこと。		
テキスト		適宜、資料を配布する。		
参考書・参考資料等		片山悠樹他（2019）『半径5メートルからの教育社会学』大月書店		
学生に対する評価		学習態度（20%）、ディスカッション・発表（30%）、課題・レポート（50%）による総合評価。		

授業 科目名	人間関係論 (Theory of human relation)	必修：理	2 単位 30 時間	担当教員名： 常山 吾朗 [公認心理師・臨床心理士] (非常勤講師室)
		選択：看・栄 歯・作	コード：LAA108	
		実務経験のある教員による授業科目		
〔DP〕Ⅳ 健康づくりの実践 Ⅴ 健康づくりの環境整備・改善 Ⅵ 生涯にわたる探求心と自己研鑽				
〔授業の到達目標及びテーマ〕				
自分の在り方を他者から強要されず、それぞれの在り方で共存が可能になる、より汎用性のある人間関係とは何か、そのために身につけるべき視点・考え方・姿勢とは如何なるものか、を考える。				
〔授業の概要〕				
・心理臨床現場の一知見をもとに、健康/不健康な人間関係、精神状態、様々な問題、回復過程などを概観する。				
・映画等を題材に用いることにより、テーマ・内容の理解を守秘義務に抵触しない形で深めてもらう。				
キーワード：相互承認				
〔授業計画〕				
回 数	日付	テ ー マ	内 容	
第1回	4/11	オリエンテーション	科目目標・授業概要・評価の説明	
第2回	4/18	心を守るもの	『となりのトトロ』を題材に 心を守るもの	
第3回	4/25	心理的自立	心理的自立	
第4回	5/2	相互承認の関係1	『千と千尋の神隠し』を題材に 保護者像の変化	
第5回	5/9	相互承認の関係2	相互承認の関係	
第6回	5/16	相互承認の関係3	感情の流れ	
第7回	5/23	相互承認の関係4	精神的健康	
第8回	5/30	子ども虐待1	『きみはいい子』を題材に	
第9回	6/6	子ども虐待2	世代間伝達をとめるには	
第10回	6/13	いじめ1	『Das experiment』を題材に	
第11回	6/20	いじめ2	蔓延とエスカレータを防ぐ手立て	
第12回	6/27	関係回復1	『おもひでぼろぼろ』を題材に	
第13回	7/4	関係回復2	心が傷つくとは	
第14回	7/11	関係回復3	自己治療の試み	
第15回	7/18	関係回復4	心の傷の回復	
履修条件		特になし		
予習・復習		予習：資料の一読。 復習：資料の再読。 わからない点は質問する。		
テキスト		なし（資料を配布する）		
参考書・参考資料等		適宜紹介する		
学生に対する評価		レスポンスシートに記入する意見・考察（感想不可。3文章。書き方は講義内で説明）。100%		

授業 科目名	コミュニケーション理論 と実際 ①② (Theory and practice of communication)	必修：理	2 単位 30 時間	担当教員名： 常山 吾朗 [公認心理師・臨床心理士] (非常勤講師室)
		選択：看・栄 歯・作	コード：LAA109	
		実務経験のある教員による授業科目		
〔DP〕Ⅱ コミュニケーション能力 Ⅲ 実践に必要な知識 Ⅳ 健康づくりの実践				
〔授業の到達目標及びテーマ〕				
・コミュニケーションの多様性を理解する。特に非言語的コミュニケーションの重要性について理解を深める。				
・医療従事者に必須とされるコミュニケーション技術を身につける。				
・コミュニケーションは情報伝達手段にとどまらず、心の健康を左右することについて理解する。				
〔授業の概要〕				
・日常生活や職業で活かせるコミュニケーションの技術・知識を、体験学習をまじえながら考え、身につける。				
・体験学習で必要とされるのは、話し上手であることではなく、伝えようとする意思・姿勢である。				
キーワード：非言語情報 準言語情報 言語情報				
〔授業計画〕				
回 数	日付	テ ー マ	内 容	
第1回	4/11	オリエンテーション	授業目標・授業概要・評価方法の説明	
第2回	4/18	非言語情報1	コミュニケーションにおける情報・向き・高さ	
第3回	4/25	非言語情報2	距離・話をしない情報収集	
第4回	5/2	非言語情報3	あいづち・うなずき	
第5回	5/9	準言語情報1	早さ・明瞭さ・語尾	
第6回	5/16	準言語情報2	口の大きさ・高齢者とのコミュニケーション・モダリティ他	
第7回	5/23	言語情報1	傾聴・受容・聞く効果・肯定の作用	
第8回	5/30	言語情報2	繰り返し・要約	
第9回	6/6	言語情報3	共感・言葉の2機能他	
第10回	6/13	言語情報4	反映・直面化・自己開示	
第11回	6/20	言語情報5	明確化・質問の型	
第12回	6/27	非言語情報4他	ラポール形成・自己理解 / 他者理解	
第13回	7/4	応用編1	言動の理由・話し合いの準備	
第14回	7/11	応用編2	話し合い	
第15回	7/18	応用編3	パートナー紹介・肯定メッセージ	
履修条件		特になし		
予習・復習		予習：資料の一読。 復習：資料の再読。わからない点は質問する。		
テキスト		なし（資料を毎回配布する）		
参考書・参考資料等		なし		
学生に対する評価		テストによる評価 55%。レスポンスシート記載内容による評価 45%。 ＊評価方法・配点は予定。		

授業 科目名	健康スポーツ科学① (Health and Sports Sciences)	履修年次	1 単位 30 時間	担当教員名： <u>島田美恵子</u> (非常勤講師室)
		必修：歯 選択：看・栄・理・作	コード：LAA110	
		実務経験のある教員による授業科目		
〔DP〕 II. コミュニケーション能力 IV 健康づくりの実践 VII 生涯にわたる探究心と自己研鑽				
〔授業の到達目標及びテーマ〕				
本授業では、自らの「からだ」を理解し、管理・創造できる能力を養いながらスポーツを楽しむことを目的とする。到達目標は以下の通りである。				
① 健康・体力づくりの基礎理論を理解する。② 様々なスポーツ実践から、スポーツ種目の特性を理解できる。③ 主体性・協調性を身につけ、ゲームを自主運営できる。				
〔授業の概要〕				
各種スポーツの実践を通して、その特性を知り、からだへの影響や運動の楽しさを体得する。運動によるからだの変化を評価する方法を学ぶ。ルールを改変することによりゲームの楽しさが異なることを知り、対象者に合わせたゲーム運営ができるようにする。				
キーワード： スポーツ 健康づくり 仲間づくり 積極的休養				
〔授業計画〕				
回 数	日付	テ ー マ	内 容	
第1回	4/11	ガイダンス	運動の効用についての説明を受け、受講のルールを確認する	
第2回	4/18	体力テスト	文部科学省 新体力テストを基本とした家庭でも測定できる種目	
第3回	4/25	健康づくりのための運動	準備運動 整理運動 の意味と実践	
第4回	5/2	選択スポーツⅠ 1	集団競技	ルールを理解して楽しむ
第5回	5/9	選択スポーツⅠ 2	集団競技	基本の技術を理解 ルールを変更して楽しむ
第6回	5/16	選択スポーツⅠ 3	集団競技	戦術を理解して楽しむ
第7回	5/23	選択スポーツⅠ 4	集団競技	課題の提示
第8回	5/30	選択スポーツⅠ 5	集団競技	まとめ 対抗戦
第9回	6/6	選択スポーツⅡ 1	個人・ペア競技	ルールを理解する
第10回	6/13	選択スポーツⅡ 2	個人・ペア競技	基本の技術を理解する ルールを変更する
第11回	6/20	選択スポーツⅡ 3	個人・ペア競技	戦術を理解して楽しむ 1
第12回	6/27	選択スポーツⅡ 4	個人・ペア競技	戦術を理解して楽しむ 2
第13回	7/4	選択スポーツⅡ 5	個人・ペア競技	まとめ 対抗戦
第14回	7/11	体力テスト	文部科学省 新体力テスト 競技に特化した体力テスト	
第15回	7/18	まとめと総括	レポート作成：テーマ ①自己体力診断 ②運動習慣自己評価	
履修条件		なし		
予習・復習		予習：課題の提示あり。復習：自主学習時間でForms にて記録を作成・提出する。		
テキスト		なし		
参考書・参考資料等		特になし		
学生に対する評価		授業態度(意欲・積極性等)60% 毎回の記録およびレポート 40%		

授業 科目名	健康スポーツ科学② (Health and Sports Sciences)	履修年次	1 単位 30 時間	担当教員名: <u>島田美恵子</u> (非常勤講師室)
		必修: 歯 選択: 看・栄・理・作	コード: LAA110	
		実務経験のある教員による授業科目		
〔DP〕 II. コミュニケーション能力 IV 健康づくりの実践 VII 生涯にわたる探究心と自己研鑽				
〔授業の到達目標及びテーマ〕 本授業では、自らの「からだ」を理解し、管理・創造できる能力を養いながらスポーツを楽しむことを目的とする。到達目標は以下の通りである。 ① 健康・体力づくりの基礎理論を理解する。② 様々なスポーツ実践から、スポーツ種目の特性を理解できる。③ 主体性・協調性を身につけ、ゲームを自主運営できる。				
〔授業の概要〕 各種スポーツの実践を通して、その特性を知り、からだへの影響や運動の楽しさを体得する。運動によるからだの変化を評価する方法を学ぶ。ルールを改変することによりゲームの楽しさが異なることを知り、対象者に合わせたゲーム運営ができるようにする。				
キーワード: スポーツ 健康づくり 仲間づくり 積極的休養				
〔授業計画〕				
回 数	日付	テ ー マ	内 容	
第1回	10/7	ガイダンス	運動の効用についての説明を受け、受講のルールを確認する	
第2回	10/21	体力テスト	文部科学省 新体力テストを基本とした家庭でも測定できる種目 ウォーミングアップとクールダウン	
第3回	10/28	スポーツの運動強度 1	運動強度の算出方法を理解する	バドミントン 1
第4回	11/4	スポーツの運動強度 2	MET s を理解する	バドミントン 2
第5回	11/11	健康づくりのための運動量	1 週間に 4MET s ・時の運動の実践	バドミントン 3
第6回	11/18	競技時間	各種スポーツの試合時間を調べる	卓球 1
第7回	11/25	競技特性	各種スポーツの特性を知る	卓球 2
第8回	12/2	ルール	ルールが意味すること	卓球 3
第9回	12/9	集団ゲーム	集団スポーツ・ルールを知る	バレーボール バスケットボール 1
第10回	12/16	集団ゲーム	集団スポーツ・技術を知る	バレーボール バスケットボール 2
第11回	12/23	集団ゲーム	集団スポーツ・戦術を知る	バレーボール バスケットボール 3
第12回	1/6	ゴール型ゲーム	集団スポーツ	フットサル
第13回	1/13	パラスポーツ	パラスポーツをさがそう	パラスポーツ体験
第14回	1/20	体力テスト	文部科学省 新体力テストを基本とした測定。効果判定	
第15回	1/27	まとめと総括	レポート作成: テーマ ①自己体力診断 ②運動習慣自己評価	
履修条件		なし		
予習・復習		予習: 課題の提示あり。復習: 自主学習時間で Forms にて記録を作成・提出する。		
テキスト		なし		
参考書・参考資料等		特になし		
学生に対する評価		授業態度(意欲・積極性等) 60% 毎回の記録およびレポート 40%		